

# 2017年8月号の**飢餓対策ニュース**に

## **九州北部豪雨被害の支援**について紹介されました!

1分間に17人(内12人が子ども)  
1日に2万5,000人  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています。

JIFH 一般財団法人  
**日本国際飢餓対策機構**

2017 **8** No.325

# 飢餓対策ニュース



## 九州北部豪雨 地元の「九キ災」と 被災者緊急支援!

緊急募金にご協力ください

当機構は、7月の九州北部豪雨で被災された人々のために九州キリスト災害支援センター(=九キ災、代表横田法路理事)に協力して支援活動を行っています。

### パンの缶詰などの物資急送

最初の緊急支援活動として、被災直後の7月7日、福岡県朝倉市にJIFH緊急支援リーダー吉田スタッフほか2名を派遣。その際に車2台にパンの缶詰約4,800食、水ボトルのほか、歯ブラシ、絆創膏、ボディソープ、虫除け、消臭スプレーなどの日用品を満載して、朝倉市の物資倉庫に届けました。これは地元の社会福祉協議会から九キ災への支援要請に基づいて行



れたものです。このうち、パンの缶詰はパン・アキモト、歯ブラシは全日本ブラシ工業共同組合から提供していただきました。

吉田スタッフはその後、九キ災メンバーとともに被害が集中した福岡県朝倉市や東峰村、大分県日田市などで被害状況を確認し

つ、泥出しや住宅の清掃などの作業も行いました。

### 【7月14日 吉田の報告】

今日は朝倉地区での作業に参加させていただきました。久留米の教会の先生や韓国人ボランティアチームと泥出しをしました。ここ



はレストラン経営をされている家で庭には大きな池があり、料理用の魚を養殖していました。しかし、洪水で池の魚は流され、建物も床上まで泥に浸っていました。

この経営者のご家族は懸命に働くボランティアの姿を見て「ほんとに助かる。ありがたいねえ。韓国からわざわざ来てくれたんね。この前も熊本や福島からも来てくれたけん。それが嬉しくてねえ」と目に涙を浮かべておられました。

### 伊東スタッフを派遣

同月15日には、吉田と交代で伊東を九キ災の日田ベースキャンプに派遣しました。伊東は東日本大震災や昨年の熊本地震での経験

を生かして、ベースキャンプの事務局とボランティア派遣の運営をサポートしています。

### 【7月19日 伊東の報告】

車を走らせていると、被害地域が分散しているのが分かります。東北は、地域全体の被害、広島は市内集中の被害でしたが、今回は被害が分散されているのが特徴的です。ですので、大きく被害を受けている範囲から、50mも離れると全く何の被害もなしという状況です。従って、ボランティアの派遣範囲も広くなります。

一般ボランティアが派遣されるのは、民家が優先となり、商業関連の泥だしは、後回しになってしまうそうです。生活再建を考えるとそうしたニーズに応えることも必要に思われます。

当機構は現地の状況の変化を確認しながら、九キ災への協力を通じて被災者支援への応援を続けてまいります。

### 緊急募金はこちらから

郵便振替又はホームページからクレジットカードのご利用もできます。  
郵便振替00170-9-68590日本国際飢餓対策機構 記入欄に「九州豪雨」と必ず明記をお願いします。